

協議等の記録			
協議名称	広報広聴会議（広聴部会）	協議場所	第1委員会室
		担当職員	田中
日時	令和7年12月22日（月曜日）	開議	午後 3時17分
		閉議	午後 4時12分
出席委員	○林 大西 山木 大塚 <木村委員長>		
事務局	小川次長 田中主事		

協議の結果

1 市議会だより(207号)広聴のページについて

○市議会だより(207号)広聴のページについて、前回協議で今年度の広聴活動の総括を掲載することに決定し、その具体的な内容について協議を行った。

<意見・感想等>

- 街頭インタビュー
 - 市民から直接話を聞くことで、しっかりと声を感じることができた。
 - 議会や議会だよりへの関心が低いことが分かった。
 - シール投票は市民にとって分かりやすい手法であり、参加しやすい雰囲気づくりができたように思う。
- 議場見学会
 - 議会で議員がどのようなことをしているのか知ってもらうことが大切であり、今後も継続して実施できればと思う。
 - 3年連続での実施ということもあり、計画的に準備に当たられた。
 - 参加された子どもだけではなく、親も一緒に議会について学び、関心を持っていただけたことがよかったと思う。
- わがまちトーク
 - アンケート結果からも、意見が出しやすい雰囲気づくりができていたように思う。模造紙や付箋を使った少人数のグループワーク形式、ノーネクタイ、アイスブレイクなどは今後も継続していけたらよいと思う。

<課題>

- 街頭インタビュー
 - SNSやインターネットを活用した意見聴取方法も検討したい。
 - 今回は小さな子どもも参加してもらっていたが、年齢層別に聴取する場合、「18歳未満」の枠をより細分化・厳格化するほうがよい。

- もっと気軽にまちへ出て市民の声に耳を傾ける機会を作る。
- 幅広い世代から意見聴収ができるよう、スーパーマーケットや各種イベント会場など、開催場所を検討する必要がある。
- 議場見学会
 - 市民憲章の唱和は、子どもにとっては少し難しかったのではないか。
 - 「議会たんけん」が好評であったため、もう少し時間をかけてより多くの会議室などを見てもらえるようにするほうがよい。
 - 小学生でも高学年と低学年では問題意識に差があるため、対象者について今一度検討する必要がある。
- わがまちトーク
 - いただいた意見については議会内で共有するのみとしていたが、「1つでも実現できたら」との意見もあったため、今後の開催に当たっては、意見の取り扱いについて再検討する必要がある。
 - トークテーマが多かったとの意見や開始時間が遅かったとの意見もあったため、調整が必要である。
 - 参加団体の広がりがなく感じるため、広報の方法など工夫できる点については検討の余地がある。

→各委員の意見や課題を取りまとめ、広報部会へ共有することとする。

2 今期の広聴部会について（総括）

○今期の広聴活動について、1年間の総括を行った。

<委員感想等>

- 大西委員
 - 広聴活動については、どの取組も継続して実施してきているものであり、円滑に準備から開催まで進めることができていると思う。来年の開催に向けて、よりブラッシュアップしていけたらよいと思う。
- 山木委員
 - 子どもから大人まで幅広い世代の市民の声を聞くことができ、議会の果たす役割を再認識できた。いただいた声をどのように議会に反映していけるかが今後の課題であると感じており、次期広聴部会委員へしっかり引き継いでいきたいと思っている。
- 大塚委員
 - 広聴活動の内容は年々充実しているように感じている。実施の目的など事前の計画に沿って実施できたと思っており、広聴部会としての役割は果たせていたと感じる。

- 木村委員長
 - 今後は中学生や高校生との意見交換会の実施も視野に入れていただきたい。こちらから出向くことで議会を知っていただけることにつながるため、街頭インタビューなどまちへ出る機会を増やしていければと思う。

3 申し送り事項について

○次期広聴部会委員への申し送り事項について、協議を行った。

→別紙「R 7 申し送り事項」のとおり次期広聴部会委員へ申し送ることとする。

4 その他

<今後の日程>

- ・ 2月13日（金） 議会運営委員会・幹事会終了後（予定）

広聴部会 令和7年度申し送り事項

➤ わがまちトーク

- 今後も自治会及び各種団体などを対象に開催する。
 - ◇ 「はたちの会実行委員会」及び「自治会」とのわがまちトークは毎年開催する。
 - ◇ より多くの市民・団体と意見交換ができるよう、開催回数や人数に制限は設けず、常時申込みを受け付けることとする。日時などについては、申込みいただいた市民・団体などと調整して決定する。
 - ◇ 実施形式は、令和6年度、7年度開催時同様に少人数によるグループワーク形式で行い、適宜模造紙や付箋などを用いる。
 - ◇ 参加者に付箋のグループ分けを行ってもらう。
 - ◇ 議員はファシリテーターとして参加し、意見交換が円滑に進むようにサポートする。
 - ◇ 「①書く」「②話す・聞く」「③見る」「④思う・考える」を意識して取り組む。特に「④思う・考える」については一定時間を取り、参加者に①～③の過程を経て感じたことを話し合っていたいただく。
 - ◇ 相手方から提案いただいたテーマについて、事前に内容のすり合わせを行い、互いに共通認識を持って意見交換を行う。
 - ◇ 意見交換会への導入として、アイスブレイクの時間を設ける。
 - ◇ ノーネクタイ等親しみやすいラフな格好での参加やシールで名札を作成するなど、より話しやすい雰囲気づくりに努める。
 - ◇ いただいた意見について、令和5年度、6年度開催においては、各常任委員会に振り分けず全議員に共有することとしていたが、何かフィードバックできることがないか検討する。また、議会活動として受ける意見であるため、議員個々で動いて解決しにいくことは避ける。
 - ◇ 基本的には広報広聴会議委員で対応する。
 - ◇ アンケートの内容は、より簡略化し、議会への意見を記入いただけるよう改善する。
Ex) ×「市政の課題で関心のあること」
 - ◇ 参加団体自ら手を上げて参加していただけるような広報の方法を考える。
 - ◇ 模造紙はHPへの掲載だけではなく、議会棟（庁舎7，8階）に掲示するなど、全議員が実物を見られるようにする。
 - ◇ その他いただいたアンケートや協議記録などを参考に活動に当たる。

➤ 議場見学会

- 今後も議場見学会を継続実施する。
- ★ 令和7年度議会活性化の検討項目「住民参画定期的な子ども議会並びに中高生議会の開催」の協議において、「子ども議会は子ども議場見学会として毎年継続して実施すること」に決定した。（令和7年11月18日 議会運営委員会）

- ◇ 小学生全学年の児童を対象としていたが、低学年と高学年では、知識量や行動意識が異なるため、対象者について再考する。
- ◇ 議会から乖離せず、小学生にとって馴染みのある事柄を取り入れる。
- ◇ 「議会たんけん」においては、より多くの会議室を見ていただけるよう工夫する。また、これまでは1班と2班でルートが被らないよう出発時間に差を設けていたが、待ち時間が生じるため、手持無沙汰にならないよう充実を図る。
- ◇ 広報の方法について、「市のLINE」「市議会ホームページ」「市議会だより」「市の広報誌（広報かめおか）」「学校案内（親宛、教育委員会経由）」を活用してきたが、どなたでも参加したいと思えるような方法を考える。
- ◇ アンケートは参加者と同伴者で内容を分ける。内容は部会において協議し、ブラッシュアップする。
- ◇ 参加者に喜んでいただける参加証を考える。（令和8年度分予算要求済）
- ◇ 活動の様子について、写真だけではなく、動画撮影を行えるよう募集時から調整する。また、次回の募集時に参加したことのない市民がイメージしやすく参加したいと思えるよう、撮影した動画や写真を繋げたショートムービーなどを作成する。
- ◇ その他いただいたアンケートや協議記録などを参考に活動に当たる。

➤ 街頭インタビュー

- 気軽にまちへ出向き、市民の意見を聴取する機会を設ける。
 - ◇ 議会として、より身近に感じていただけるような取組を検討する。
 - ◇ 市政に関する質問は極力避ける。議会に関する事項について、市民の意見を聞くこと。
 - ◇ 「聞きたいこと」や「それを聞いて議会にどのように反映できるか」などを考慮し、質問に応じて対象者（市内外、年齢など）や聴取方法（年齢層別、SNSやインターネットの活用など）を検討する。
 - ◇ シール投票など対象となる市民にとって分かりやすく、参加しやすい手法を用いる。

➤ 市議会だより（広聴のページ）

- 各議会で発行する市議会だよりについて、各回3ページを「広聴のページ」として広聴の活動を中心に掲載する。（※各議会での議論に応じてページ数などに変更の可能性あり）
 - ◇ 当初に各回の紙面に掲載する内容について協議し、その計画に沿って広聴活動を進める。
 - ◇ 広聴活動を実施するうえでは、市民に分かりやすく広報できるよう「目的」「成果」「課題」などを意識して取り組む。
 - ◇ 令和7年度は、広聴部会で内容も含めて大まかなレイアウトなども考えていたが、今後は広聴部会として掲載したい内容を協議し、案として情報共有するのみとする。詳細は広聴部会委員と広報部会の各回の広聴ページ担当委員とで協議を行い調整する。

➤ その他

- 必要に応じて意見交換会などを行い、市民の意見を直接聴取する機会を設ける。
 - ◇ 開かれた議会として、より身近に感じていただけるような取組を検討する。